

社会福祉の理論と実践をつなぐ

受講料

無料

第 61回 社会福祉セミナー

社会福祉の「支援」は どこに向かうか

期 日 | 2025 年 7 月 5 日(土)、6 日(日)

定 員 | 600 名(定員になり次第締切)

受 講 料 | 無料

▼受講申込▼

申込締切 | 2025 年 6 月 19 日(木)

開催方法 | Zoom ウェビナーを使用したオンライン開催

申込方法 | 鉄道弘済会ホームページ
<https://www.kousaikai.or.jp/news/detail/>
もしくは右の QR コードよりお申し込みください。



ねらい

支援とは何か。それは、社会福祉の歴史的変遷のなかで、繰り返し問い直されてきたテーマである。社会的に生み出されるさまざまな「生きづらさ」に対応する社会福祉の支援は、社会状況にあわせて変化することが求められ、今日においても、新たな視点や切り口からさまざまな支援論が提起されている。一方で、当事者や実践者、研究者などが、それぞれの分野や立場を超えて支援のあり方について議論を深める場や機会は多くはない。

このような状況に鑑み、本セミナーでは、政策・実践・理論の視点から支援をめぐる議論の変遷を振り返るとともに、実践者や「支援を受ける」経験をもつ人たちの語りに耳を傾けることを通して、今後の支援の方向性について、改めて考えたい。

プログラム | 7月5日(土)

(敬称略)

開会挨拶

10:00～

基調鼎談

開会挨拶終了後～12:30

支援論の現在地－政策・実践・理論の視点から－

支援はこれまでどのように語られ、意味づけられ、とらえられてきたのだろうか。

本鼎談では、わが国の社会福祉の政策・実践・理論の視点から、支援をめぐる議論の変遷を概観し、今日的な到達点について多面的に整理する。また、今後どのような議論が求められるのかについても探りたい。

同志社大学政策学部教授 畑本 裕介

NPO 法人 IL&P アシスト理事長、介助者 寺本 晃久

法政大学社会学部教授 三井 さよ

休憩

12:30～13:30

講座①

13:30～16:00

実践者が語る「新たな支援」のかたち

社会福祉の領域において、「新たな支援」のかたちは常に実践の現場から発信されてきた。今、全国で注目を集める実践者は、自らの支援の軸をどこに置き、どのような「支援者像」を意識しているのだろうか。本講座では、実践者の語りを通じて、「新たな支援」のかたちについて考えたい。

社会福祉法人北翔会理事長兼総合施設長 大場 信一

NPO法人場作りネット理事、「やどかりハウス」コーディネーター 秋山 紅葉

NPO法人サンカクシャ代表理事 荒井 佑介

コーディネーター：立教大学コミュニティ福祉学部准教授 川村 岳人

プログラム | 7月6日(日)

(敬称略)

講座②

10:00~12:30

当事者発の支援論－「支援を受ける」経験から－

支援のあり方を考えるうえで、それを必要とする人々の視点からの議論を欠かすことはできない。

支援を必要とする人たちは、社会福祉における支援のあり方や、それをめぐる議論を、どのようにみているのか。本講座では、「支援を受ける」経験をもつ人たちの語りをもとに、今後の支援の方向性について展望する。

おおごだ法律事務所代表弁護士 大胡田 誠

NPO 法人里親ひろばほいっぴ理事 坂本 歩

一般社団法人社会的包摂サポートセンター相談支援コーディネーター 和久井みちる

コーディネーター：慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 堀田 聡子

休憩

12:30~13:30

記念講演

13:30~15:00

コードのぼくが生きる世界

作家 五十嵐 大

受講いただくにあたって

- ・ 受講に必要な機材(PC、スマートフォン、タブレットなど)とインターネット環境をご用意ください。
 - ※ 視聴に伴う通信料などは受講者負担になります。また、通信環境によっては動画の乱れが生じる場合があります。
 - ※ インターネット接続に関する不具合、お問い合わせなどには対応できかねます。あらかじめご了承ください。
- ・ 本法人の許可なく、資料の一部およびすべてを複製、転載、または配布、印刷などし、第三者の利益に供することを禁止いたします。また、配信画面の録画、録音および撮影などは固くお断りいたします。
- ・ 取材や各媒体への掲載をご希望の方は、右記 QR コードより「取材申請画面」にて事前にお知らせください。
- ・ セミナー当日に X(旧 Twitter)で「#社会福祉セミナー」をつけ、感想などご投稿いただけますと幸いです。
- ・ 受講申込の際にお預かりする個人情報は、本法人のセミナー事業などのご案内にのみ使用いたします。

▼取材申込▼



講師紹介

【基調鼎談】

畑本 裕介（はたもと ゆうすけ）

（同志社大学政策学部教授）

慶應義塾大学法学研究科後期博士課程単位取得退学、博士（公共政策学）。山口学芸大学、山梨県立大学、同志社大学准教授等を経て、2018年より現職。専門は社会政策学。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験試験委員、京都府国民健康保険運営協議会会長等。著書に『再帰性と社会福祉・社会保障―「生」と福祉国家の空白化―』（生活書院、2008年）、『新版 社会福祉行政―福祉事業所論から新たな行政機構論へ―』（法律文化社、2021年）、『これからの福祉政策―ローカルの視点から考える―』（共著、有斐閣、2024年）等。

寺本 晃久（てらもと あきひさ）

（NPO 法人 IL&P アシスト理事長、介助者）

東京都立大学大学院社会科学部研究科修士課程修了。1990 年代半ば頃より、知的障害のある人の権利主張の活動や、自立生活の支援を行ってきた。共著に『ズレる支援！―知的障害／自閉の人たちの自立生活と重度訪問介護の対象拡大―』（生活書院、2015 年）、論文に「移動と抵抗―小田さんの話―」（『障害学研究 20 障害学の展開―理論・経験・政治―』（明石書店、2024 年）等。

三井 さよ（みつい さよ）

（法政大学社会学部教授）

2003 年、東京大学大学院人文社会学系研究科博士課程修了。博士（社会学）。2004 年より法政大学社会学部専任講師（2014 年より現職）。専門は社会学。主著に『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学―多摩とたこの木クラブを研究する―』（生活書院、2023 年）、『ケアと支援と「社会」の発見―個のむこうにあるもの―』（生活書院、2021 年）、『はじめてのケア論―新たなケアと支援のしくみをつくるために―』（有斐閣、2018 年）等。

【講座①】

川村 岳人（かわむら かくと）

（立教大学コミュニティ福祉学部准教授）

日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。専門は地域福祉、居住福祉。沖縄県庁、健康科学大学、大分大学を経て、2021 年 4 月より現職。社会的孤立や生活困窮の問題に関心を持っており、こうした問題が先鋭的に現れ、一部ではスティグマ化も指摘されている大規模な公営住宅団地に焦点を当て、質的調査・量的調査を行いながら地域福祉実践のありようを研究してきた。

大場 信一（おおば しんいち）

（社会福祉法人北翔会理事長兼総合施設長）

1974 年大学卒業後、北海道職員となり、児童相談所（児童福祉司、所長）に長く勤務。退職後の 2010 年より公益財団法人鉄道弘済会札幌南薬園長として勤務、2018 年から同園参与。2016 年より社会福祉法人北翔会理事・評議員に就任し、2020 年より同法人理事長。札幌南薬園長就任後からは全国児童養護施設協議会副会長等を担っている。

秋山 紅葉（あきやま くれは）

（NPO 法人場作りネット理事、「やどかりハウス」コーディネーター）

1984 年東京都生まれ。青年期には、南インドの先住民の村に滞在したり、日雇い労働者の街・山谷で簡易宿泊所の女性たちと寝食を共にした。2012 年から 2023 年まで、国立病院機構小諸高原病院で精神障害者の地域移行支援と当事者活動に取り組み、2019 年から現在にかけて、場作りネットにて制度では助けられない人々の声を頼りに、文化施設を生かした場作りに仲間と共に取り組む。長野県上田市で「のきした」「やどかりハウス」等を運営。精神保健福祉士、公認心理師。

荒井 佑介（あらい ゆうすけ）

（NPO 法人サンカクシャ代表理事）

1989 年埼玉県生まれ。約 13 年前より、ホームレス支援や子どもの貧困問題に関わり始める。生活保護世帯を対象とする中学 3 年生の学習支援に長く関わっていたが、高校に進学しても、高校中退・妊娠出産・就職でつまずく子どもや若者に多く出会ってきたことから、サンカクシャを立ち上げた。サンカクシャでは、15 歳から 25 歳前後までの、親や身近な大人を頼れない若者の「居場所」「住まい」「仕事」の 3 つをメインに支援している。

【講座②】

堀田 聰子（ほった さとこ）

（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

東京大学社会科学部研究所特任准教授、ユトレヒト大学訪問教授等を経て 2017 年 4 月より現職。博士（国際公共政策）。認知症未来共創ハブ代表。社会保障審議会（介護給付費分科会及び福祉部会）、認知症施策推進関係者会議等において委員。一般社団法人とまちづくり研究所代表理事、NPO 法人日本医療政策機構理事、一般社団法人コード・フォー・ジャパン理事等。

大和田 誠（おおおだ まこと）

（おおおだ法律事務所代表弁護士）

1977 年静岡県生まれ。先天性緑内障により 12 歳で失明する。2006 年、司法試験に合格し、2007 年弁護士登録。全盲で司法試験に合格した日本で 3 人目の弁護士になる。著書『全盲の僕が弁護士になった理由―あきらめない心の鍛え方―』（日系 BP 社、2012 年）は、2014 年ドラマ化され大きな反響を呼んだ。

坂本 歩（さかもと すずむ）

（NPO 法人里親ひろばほいっふ理事）

産まれてすぐに乳児院に入所し、児童養護施設を転々としながら小学 1 年生の夏に里親家庭に措置される。20 歳まで里子として過ごし、2016 年に養子縁組をする。2022 年に里親登録し、現在はファミリーホームの養育者として、母と一緒に 4 名の里子を養育している。2022 年から現職で活動している。

和久井 みちる（わくい みちる）

（一般社団法人社会的包摂サポートセンター相談支援コーディネーター）

行政職員（福祉現場で勤務）、NPO 法人のケアマネジャー、非営利団体の地域福祉事業担当職員、電話相談のコーディネーター等を経て、支援者支援事業、相談や支援現場の人材育成事業に携わりつつ、現在に至る。私生活では DV 被害とうつにより、生活保護制度を 3 年半利用。その間にシングルマザーとなる。著書に『生活保護とあたし』（あけび書房、2012 年）等。

【記念講演】

五十嵐 大（いがらし だい）

（作家）

1983 年宮城県塩竈市生まれ。耳のきこえない両親を持つ「コーダ」として生まれ育つ。2020 年に作家デビュー。2024 年 9 月、『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた 30 のこと』（幻冬社、2021 年）。その後、『ぼくが生きてる、ふたつの世界』と改題し文庫化）を原作とした実写映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」が公開される。

問い合わせ先

公益財団法人鉄道弘済会「社会福祉セミナー」係
TEL 03-6261-2790 FAX 03-3815-8978
Mail fukushi-seminar@kousaikai.or.jp